



インベントリ データおよび障害の表示

この章は次のトピックで構成されています。

- [ラックマウント サーバの詳細の表示 \(1 ページ\)](#)
- [ラック マウント サーバの障害の詳細の表示 \(9 ページ\)](#)
- [ラック グループの要約レポート \(9 ページ\)](#)
- [サーバ障害に関する電子メールアラート ルールの追加 \(10 ページ\)](#)

ラックマウント サーバの詳細の表示

ラックマウント サーバの詳細（サーバで使用されているメモリ、CPU、PSU など）を表示する場合は、次の手順を実行します。



(注) [ラック グループ (Rack Groups)] を選択し、ラックマウント サーバの詳細を表示する手順を実行することもできます。

始める前に

サーバがラック アカウントとしてラック グループに追加されていることを確認します。

手順

- ステップ 1** [システム (Systems)] > [インベントリと障害のステータス (Inventory and Fault Status)] を選択します。
- ステップ 2** [ラック グループ (Rack Groups)] を展開し、サーバが含まれているラック グループを選択します。
- ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ (Rack Servers)] をクリックします。
- ステップ 4** リストでサーバをダブルクリックしてその詳細を確認するか、リストでサーバを選択し、右端の下矢印をクリックして [詳細の表示 (View Details)] を選択します。

(注) リストからサーバを選択するまでは、右端に下向き矢印は表示されません。

ラックマウント サーバに関する次の詳細が表示されます。

タブ	説明
要約	ラック アカウムの概要。
CPU	サーバで使用されている CPU の詳細。
メモリ	サーバで使用されているメモリの詳細。
PSUs	サーバで使用されている電源モジュールの詳細。 (注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。
PCIアダプタ	サーバで使用されている PCI アダプタの詳細。
VICアダプタ	サーバで使用されている VIC アダプタの詳細。 リストされている VIC アダプタのいずれかを選択して [詳細の表示 (View Details)] をクリックすると、[外部イーサネット インターフェイス (External Ethernet Interfaces)] と [VM FEX (VM FEXs)] の情報が表示されます。
ネットワークアダプタ	サーバで使用されているネットワーク アダプタの詳細。 リストされているネットワーク アダプタのいずれかを選択して [詳細の表示 (View Details)] をクリックすると、[外部イーサネット インターフェイス (External Ethernet Interfaces)] の情報が表示されます。
ストレージアダプタ	サーバで使用されているストレージアダプタの詳細。 リストされているストレージアダプタのいずれかを選択して [詳細の表示 (View Details)] をクリックすると、[コントローラ情報 (Controller Info)]、[物理ドライブ (Physical Drives)]、[仮想ドライブ (Virtual Drives)] などの情報が表示されます。 SSD のスマート情報の表示 (4 ページ) を参照してください。
FlexFlashアダプタ	サーバで使用されている FlexFlash アダプタの詳細。 リストされている FlexFlash アダプタのいずれかを選択して [詳細の表示 (View Details)] をクリックすると、[コントローラ情報 (Controller Info)]、[物理ドライブ (Physical Drives)] などの情報が表示されます。 Cisco IMC Supervisor を旧バージョンからアップグレードしている場合、FlexFlash の詳細をレポートに表示するには [システム (Systems)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] > [ラック アカウムの (Rack Accounts)] > [インベントリ (Inventory)] に移動してインベントリを実行するか、定期的なインベントリが実行されるのを待つ必要があります。 (注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。

タブ	説明
通信	HTTP、HTTPS、SSH、IPMI Over LAN、NTP、SNMP などのプロトコルに関する情報。
リモート プレゼン ス	VKVM、Serial Over LAN、および vMedia の詳細。
障害	サーバで記録された障害の詳細。
ユーザ数	<p>デフォルトグループのユーザに関する詳細。ユーザポリシーおよびパスワードの有効期限ポリシーの作成時に設定した強力なパスワードポリシーとパスワード有効期限の詳細も確認できます。ユーザポリシーおよびパスワードの有効期限ポリシーを参照してください。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
Cisco IMC ログ	<p>サーバの Cisco IMC ログの詳細。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
システム イベント ログ	<p>サーバ ログの詳細。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
TPM	TPM インベントリに関する情報。
BIOS	<p>サーバの BIOS 設定とブート順序の詳細。</p> <p>サーバを選択し、[BIOS 設定の表示 (View BIOS Settings)]、[ブート設定の表示 (View Boot Settings)]、[ブート順序の表示 (View Boot Order)] のいずれかをクリックします。</p>
障害履歴	サーバで発生した障害の履歴情報。
テクニカル サポー ト	<p>ファイル名、宛先タイプ、アップロードのステータスなどのテクニカルサポートログファイルに関する詳細は、[テクニカル サポート (Tech Support)] テーブルに表示されます。</p> <p>リモートサーバまたはローカルの Cisco IMC Supervisor アプライアンスへテクニカルサポート ログ ファイルをエクスポートするオプションがあります。エクスポートの詳細については、リモートサーバへのテクニカルサポートデータのエクスポートを参照してください。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>

タブ	説明
ホストイメージ	<p>イメージの詳細（名前、サイズ、MD5チェックサム、最終変更時刻、イメージがマップされているかどうかなど）が表示されます。イメージを選択し、[イメージのマッピング (Map Image)]、[イメージのマッピング解除 (Unmap Image)]、または[イメージの削除 (Delete Image)]を選択して、それぞれのアクションを実行できます。</p> <p>(注) ホストイメージマッピングは、E シリーズ サーバにのみ適用できます。</p>
関連付けられているハードウェアプロファイル	ハードウェアプロファイルに関連付けられているポリシーの詳細。

ステップ 5 右端の [戻る (Back)] ボタンをクリックして前のウィンドウに戻ります。

SSD のスマート情報の表示

ストレージコントローラの下にソリッドステートドライブ (SSD) のスマート情報を表示するには、次の手順を実行します。

始める前に

サーバがラック アカウントとしてラック グループに追加されていることを確認します。

手順

ステップ 1 [システム (Systems)] > [インベントリと障害のステータス (Inventory and Fault Status)] を選択します。

ステップ 2 [ラック グループ (Rack Groups)] を展開し、SSD ドライブが含まれているラック グループを選択します。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[ラック サーバ (Rack Servers)] をクリックします。

(注) また、[ラック グループ (Rack Groups)] でサブグループを選択することもできます。

ステップ 4 リストに SSD が含まれているサーバをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラック サーバ (Rack Server)] ページで [ストレージアダプタ (Storage Adapters)] をクリックします。

ステップ 6 SSD ドライブをダブルクリックし、[コントローラ情報 (Controller Info)] をクリックします。

次のコントローラ設定を使用できます。

- SMART でのコピーバックの有効化 (Enable Copyback on SMART)

• SMART エラーでの SSD へのコピーバックの有効化 (Enable Copyback to SSD on SMART Error)

ステップ 7 SSD ドライブをダブルクリックし、[物理ドライブ (Physical Drives)] をクリックします。

ステップ 8 SSD 物理ドライブをダブルクリックし、[スマート情報の表示 (View Smart Information)] をクリックします。

SSD ドライブに関する次の詳細が表示されます。

タブ	説明
[電源再投入カウント (Power Cycle Count)] フィールド	ドライブが製造されてから現在までに電源の再投入が行われた回数。
[電源オン時間 (Power on Hours)] フィールド	ドライブが「電源オン」モードになっている合計時間数。
[残量 (パーセンテージ) (Percentage Life Left)] フィールド	半導体ドライブ (SSD) のライフタイムで残っている書き込みサイクルの回数。たとえば、ライフタイムを通して 100 回の書き込みサイクルに対応できる SSD で 15 回の書き込みが行われた場合、ドライブのライフタイムの残りのパーセンテージは 85% となります。パーセンテージの各範囲は異なる色で表されます。たとえば、75%~100% は緑、1%~25% は赤で表されます。 (注) [コントローラ情報 (Controller Info)] の下の [SD - 残量 (パーセンテージ) (SSD - Percentage Life Left)] に、SSD の棒グラフが追加されます。
[消耗ステータス (日数) (Wear Status in Days)] フィールド	SSD で書き込みサイクルが行われた日数。 SSD ベンダーが提示する 1 日あたりの SSD 書き込みの有限回数に基づいて、SSD が機能し続ける合計年数を計算できます。
[動作温度 (Operating Temperature)] フィールド	選択した SSD が、それを選択した時点で動作していたドライブの温度。
[消費された予約済みの容量の割合 (Percentage Reserved Capacity Consumed)] フィールド	(SSD 用に予約されているパーセンテージのうち) SSD が消費した容量の合計。

タブ	説明
[前回の更新時刻 (Time of Last Refresh)]フィールド	ドライブが最後に更新されてからの時間。

ステップ 9 [閉じる (Close)]をクリックします。

(注) [ストレージアダプタ (Storage Adapter)]ページで [コントローラ情報 (Controller Info)]をクリックし、[残量 (パーセンテージ) (Percentage LIFE LEFT)]、[SMART でのコピーバックの有効化 (Enable Copy back on SMART)]、[SMART エラーでの SSD へのコピーバックの有効化 (Enable Copy back to SSD on SMART Error)]などのコントローラ設定を表示します。

コントローラ ドライブ セキュリティの概要

自己暗号化ドライブ (SED) は、データをドライブに書き込む際にデータを暗号化し、データを読み取る前に復号するために使用されます。これにより、ドライブのデータのセキュリティが確保されます。Cisco IMC Supervisor は、この機能のためにコントローラ、物理ドライブ、および仮想ドライブの各レベルでのセキュリティの有効化をサポートしています。

コントローラ レベルのセキュリティには、リモート キー管理とローカル キー管理の 2 つのオプションがあります。リモート キー管理では、KMIP サーバからセキュリティ キー ID とセキュリティ キーが取得されます。ローカル キー管理では、セキュリティ キー ID とセキュリティ キーはユーザが指定するか、または CIMC サーバから提案されます。これらのパラメータはドライブのデータを保護する目的で使用されます。

物理ドライブ レベルのセキュリティでは、SED ドライブをロック状態または外部ロック状態にできます。ロック状態では、このサーバでコントローラのセキュリティ キーを使用してドライブがロックされています。外部ロック状態では、別のコントローラのセキュリティ キーを使用してドライブがロックされていますが、ドライブはこのコントローラに配置されています。外部ロック状態のドライブをロック解除するには、そのコントローラのセキュリティ キーが必要です。ロック解除後には、ドライブに対して任意のセキュリティ関連の操作を実行できます。



(注) Cisco IMC Supervisor ではローカル キー管理だけがサポートされており、リモート キー管理はサポートされていません。[コントローラ ドライブ セキュリティの詳細の表示 \(7 ページ\)](#) を参照してください。

コントローラ ドライブ セキュリティの詳細の表示

[コントローラ情報 (Controller Info)]、[物理ドライブ (Physical Drives)]、および[仮想ドライブ (Virtual Drives)]でコントローラ ドライブのセキュリティの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

始める前に

M4 ラックマウント サーバまたは UCS S3260 ストレージ サーバには SED が接続されている必要があります。

手順

- ステップ 1** [システム (Systems)] > [インベントリと障害のステータス (Inventory and Fault Status)] を選択します。
 - ステップ 2** [ラック グループ (Rack Groups)] を展開し、サブ ラック グループを選択します。
 - ステップ 3** [ラック サーバ (Rack Servers)] をクリックします。
 - ステップ 4** サーバをダブルクリックします。
 - ステップ 5** [ラック サーバ (Rack Server)] ページで [ストレージ アダプタ (Storage Adapters)] をクリックします。
 - ステップ 6** 選択したサーバをダブルクリックするか、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
 - ステップ 7** [ストレージ アダプタ (Storage Adapter)] ページで [コントローラ情報 (Controller Info)] をクリックします。
- SSD ドライブに関する次の詳細が表示されます。

タブ	説明
[電源再投入カウント (Power Cycle Count)] フィールド	ドライブが製造されてから現在までに電源の再投入が行われた回数。
[電源オン時間 (Power on Hours)] フィールド	ドライブが電源オン モードになっている合計時間数。

タブ	説明
[残量 (パーセンテージ) (Percentage Life Left)]フィールド	<p>半導体ドライブ (SSD) のライフタイムで残っている書き込みサイクルの回数。たとえば、ライフタイムを通して 100 回の書き込みサイクルに対応できる SSD で 15 回の書き込みが行われた場合、ドライブのライフタイムの残りのパーセンテージは 85% となります。パーセンテージの各範囲は異なる色で表されます。たとえば、75% ~ 100% は緑、1% ~ 25% は赤で表されます。</p> <p>(注) [コントローラ情報 (Controller Info)] の下の [SD-残量 (パーセンテージ) (SSD - Percentage Life Left)] に、SSD の棒グラフが追加されます。</p>
[消耗ステータス (日数) (Wear Status in Days)]フィールド	<p>SSD で書き込みサイクルが行われた日数。SSD ベンダーが提示する 1 日あたりの SSD 書き込みの有限回数に基づいて、SSD が機能し続ける合計年数を計算できます。</p>
[動作温度 (Operating Temperature)]フィールド	<p>選択した SSD が、それを選択した時点で動作していたドライブの温度。</p>
[消費された予約済みの容量の割合 (Percentage Reserved Capacity Consumed)]フィールド	<p>(SSD 用に予約されているパーセンテージのうち) SSD が消費する合計容量。</p>
[前回の更新時刻 (Time of Last Refresh)]フィールド	<p>ドライブが最後に更新されてからの時間。</p>

- ステップ 8** [ストレージアダプタ (Storage Adapter)] ページで [物理ドライブ (Physical Drives)] をクリックします。
 コントローラ名、物理ドライブ番号、ステータス、ヘルス、シリアル番号、ファームウェア、FDE 対応、FDE 有効、保護済み、ロック済み、外部ロック済みなどの詳細が表示されます。
- ステップ 9** [ストレージアダプタ (Storage Adapter)] ページで [仮想ドライブ (Virtual Drives)] をクリックします。
 仮想ドライブ番号、名前、ステータス、ヘルス、サイズ、RAID レベル、ブートドライブ、FDE 対応、FDE 有効などの詳細が表示されます。
- ステップ 10** [送信 (Submit)] をクリックします。

ラック マウント サーバの障害の詳細の表示

問題の原因や問題解決のための推奨手順など、ラック マウント サーバの障害の詳細を表示する場合は、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

- ステップ 1** [システム (Systems)] > [インベントリと障害のステータス (Inventory and Fault Status)] を選択します。
- ステップ 2** [ラック グループ (Rack Groups)] ページで、[障害 (Faults)] をクリックします。
- ステップ 3** リストでサーバをダブルクリックし、詳細を表示します。リストでサーバをクリックし、右端の下矢印をクリックして [詳細の表示 (View Details)] を選択することもできます。

(注) リストからサーバを選択するまでは、右端に下矢印は表示されません。

ラックマウント サーバに関する次の詳細が表示されます。

タブ	説明
説明	問題の原因の要約。
推奨	問題を解決する手順。

- ステップ 4** [閉じる (Close)] をクリックします。

ラック グループの要約レポート

[インベントリと障害のステータス (Inventory and Fault Status for Rack Groups)] ページには、ラック グループのリストが表示されます。[ラック グループ (Rack Groups)] でグループを選択すると、選択したラック グループのページに、次のレポートを示す [要約 (Summary)] レポートが表示されます。

- [障害 (Faults)] : 選択したラック グループの障害数の合計を示します。障害の数は、[クリティカル (Critical)]、[メジャー (Major)]、[警告 (Warnings)]、[マイナー (Minor)]、[通知 (Info)] などの重大度に基づいて分類されます。
- [サーバの状態 (Server Health)] : サーバ全体のヘルス ステータスを表します。サーバ全体のヘルス ステータスは、[良好 (Good)]、[メモリ テストが進行中です (Memory Test

In Progress)]、[中程度の障害 (Moderate Fault)]、[重大な障害 (Severe Fault)]などの状態のいずれかになります。



(注) [中程度の障害 (Moderate Fault)]と[重大な障害 (Severe Fault)]は、それぞれ、重大度が[メジャー (Major)]および[重大 (Critical)]の障害と関連します。ただし、サーバのヘルスステータスは CIMC によって報告されるステータスに基づいて決定され、上記の障害の重大度に対して、常に直接的にマッピングされるわけではないことに注意してください。障害のタイプや関連コンポーネントなどの他の要素がサーバ全体のヘルスステータスに影響します。

- [シャーシの状態 (Chassis Health)]: シャーシのヘルスステータスを表します。ヘルスステータスは、[良好 (Good)]、[メモリテストが進行中です (Memory Test In Progress)]、[中程度の障害 (Moderate Fault)]、[重大な障害 (Severe Fault)]などの状態のいずれかになります。
- [ファームウェアのバージョン (Firmware Versions)]: 選択されたラックグループに対し、そのファームウェアバージョンで管理されているサーバの合計数を表します。
- [サーバモデル (Server Models)]: 選択されたラックグループに対し、そのモデルで管理されているサーバの合計数を表します。
- [電源の状態 (Power State)]: 選択されたラックグループに対し、その電源状態で管理されているサーバの合計数を表します。電源の状態は[オン (On)]または[オフ (Off)]のいずれかです。
- [サーバ接続のステータス (Server Connection Status)]: 選択されたラックグループに対し、その接続ステータスをもつサーバの合計数を表します。接続ステータスは[成功 (Success)]または[失敗 (Failed)]のいずれかです。
- [概要 (Overview)]: サーバの合計数と重大な障害の数を示します。

サーバ障害に関する電子メールアラート ルールの追加

1つ以上の電子メールルールを作成できます。各ルールでは、指定した条件に一致する障害が定期的な検査で見つかると、電子メールアラートが送信されます。このような障害に関する電子メールアラートを受信するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 [管理 (Administration)] > [システム (System)] を選択します。

ステップ2 [電子メールアラートルール (Email Alert Rules)] をクリックします。

(注) [電子メール アラート ルール (Email Alert Rules)] テーブルには、電子メール アラート ルール名、アラート 範囲、アラート ルールで選択されたサーバとサーバ グループ などのアラート ルールの詳細が表示されます。

ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 4 [電子メール アラート ルールの追加 (Add Email Alert Rule)] ページで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	ルールの一意の名前を入力します。
アラート 範囲	任意のサーバで検出された新しい障害に関するすべてのシステム レベルのアラートを受信するには[システム (System)]を選択します。特定のラック グループの一部であるサーバで検出された新しい障害に関する電子メール アラートを受信するには [サーバ グループ (ServerGroup)]を選択します。特定のサーバで検出された新しい障害に関する電子メール アラートを受信するには[サーバ (Server)]を選択します。
サーバグループ	アラート レベルとして [サーバ グループ (ServerGroup)]を選択すると、このオプションが表示されます。 <ol style="list-style-type: none"> [選択 (Select)] をクリックします。 [選択 (Select)] ダイアログボックスで 1 つ以上のラック サーバ グループをオンにし、[選択 (Select)] をクリックします。電子メール アラートの送信対象となる選択されたサーバ グループの名前が、このフィールドの横にリストされます。
サーバ	アラート レベルとして [サーバ (Server)] を選択すると、このオプションが表示されます。 <ol style="list-style-type: none"> [選択 (Select)] をクリックします。 [選択 (Select)] ダイアログボックスで 1 つ以上のサーバをオンにし、[選択 (Select)] をクリックします。電子メール アラートの送信対象となる選択されたサーバの名前が、このフィールドの横にリストされます。

フィールド	説明
[電子メールアドレス (Email Addresses)] フィールド	電子メール アラートの対象受信者の電子メールアドレス。電子メールアドレスが複数ある場合は、カンマで区切って入力できます。
重大度	<p>[電子メールアドレス (Email Addresses)] フィールドで設定された電子メールアドレスに電子メールアラートを送信する対象となる障害重大度レベルを選択するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [選択...] をクリックします。 2. リストから 1 つ以上の重大度レベルをオンにし、[選択 (Select)] をクリックします。 <p>(注) 選択した値が [選択... (Select...)] ボタンの横に表示されます。</p>
[ルール有効 (Rule Enabled)] チェックボックス	このチェックボックスをオンにして、設定された電子メールアドレスへの電子メールアラートを有効にします。

- (注)
- 電子メール アラート ルールを修正および削除できます。[編集 (Edit)] および [削除 (Delete)] オプションは、ルールを選択した場合にのみ表示されます。[編集 (Edit)] をクリックし、表示されているフィールドを必要に応じて変更するか、[削除 (Delete)] をクリックして、削除することを確認します。
 - 同時に複数のルールを選択して [削除 (Delete)] をクリックし、それらを削除できます。
 - 送信される電子メールアラートの数は、作成したルールの数に基づいています。
 - 1.0 または 1.0.0.1 でシステム レベル ルールが存在する場合、1.1 にアップグレードすると、デフォルトでのそのルールの名前が **system-default** として追加されたことを確認できます。このグループの [アラートレベル (Alert Level)] フィールドは変更できませんが、このシステムレベルルールを削除することは可能です。